

献 辞

ゴールズベリ ピーター アンソニー先生と日野三十四先生は、共に2008年3月をもって広島大学を定年退職される。われわれ広島大学マネジメント学会では、長年にわたる両先生のマネジメント専攻に対するご貢献に深甚なる謝意を表し、ここに退職記念号を刊行することとした。

ゴールズベリ ピーター アンソニー先生は、1969年6月サセックス大学英米研究学部哲学専攻を卒業後、1969年9月サセックス大学大学院哲学専攻（哲学修士）、1980年6月ロンドン大学大学院博士課程哲学専攻（哲学博士）を修了され、1980年4月広島大学総合科学部外国人教師、1987年4月広島大学総合科学部助教授、1993年4月広島大学大学院社会科学研究科担当、1994年10月広島大学総合科学部教授、2006年4月広島大学大学院社会科学研究科マネジメント専攻教授を歴任された。この間、通算28年間にわたり、広島大学において外国語及び比較文化論・異文化交渉学の教育・研究に携わられ、その豊富な学識と高潔な人格及び精力的な指導をもって多くの人材を社会に送り出されるとともに、全学国際交流委員会副委員長や学部国際交流委員会委員長など国際交流関係の業務、英語講座主任やプログラム主任など学部及び大学院の管理・運営に積極的に参画されてきた。

研究面においては、古代ギリシャ哲学を中心に幅広い研究を展開され、特に言語や思想、比較文化などの研究分野では第一人者として認められている。

社会活動の面では、広島国際交流協会（現広島平和文化センター）評議員、広島国際学園評議員、広島市外国人市民施策懇談会座長などの各種委員を務められ、地域文化の向上及び社会の発展に寄与された。また、日本に住む数少ない非日本人の合気道家の一人として、1984年から国際合気道連盟の理事、2000年からは同連盟理事長に就任され、国際的なスポーツ振興にも寄与された。

学界においては、Aristotelian Society, Japan Association for Language Teaching の会員・役員として学会の運営と発展に貢献された。

日野三十四先生は、1968年3月東北大学工学部機械工学第二学科を卒業後、1968年4月東洋工業株式会社（現マツダ）へ入社され、ロータリーエンジン研究部から開発管理部を経て、2004年3月同社を退職されている。その後、2004年4月から広島大学大学院社会科学研究科マネジメント専攻教授に就任された。この間、通算4年間にわたり、広島大学において経営情報論及び製品開発論・生産管理論の教育・研究に携わられ、その豊富な学識と高潔な人格及び精力的な指導をもって多くの人材を社会に送り出されるとともに、東千田地区代表教員や社会科学研究科代議員会代議員など大学院の管理・運営に積極的に参画されてきた。

研究面においては、トヨタ自動車の経営システムを中心に研究を展開され、特にモジュラー・デザインの研究分野では第一人者として認められている。その研究成果である著書『トヨタ経営システムの研究』は、英語・中国語・韓国語版も刊行され、2007年3月には、米国 Shingo Prize for Excellent Manufacturing から2007 Research Awards を受賞されている。

社会活動の面では、広島大学派遣教授として、韓国電子デバイス会社や国内重工業会社でモジュラー・デザイン方法論の技術指導を行われ、業界及び社会の発展に寄与された。

学界においては、日本品質管理学会、日本生産管理学会、日本経営工学会、日本バリュー・エンジニアリング協会の会員として学会の運営と発展に貢献された。

このように両先生は、研究・教育・組織運営にわたるあらゆる分野において、常に真摯な態度で臨まれ、きわめて顕著な実績を残されてきた。今回のご退職は、マネジメント専攻および広島大学にとって誠に痛手であるが、なんびとも如何ともしがたい。広島大学マネジメント学会は、今後も両先生に温かい目で見守っていただくことをお願いするとともに、ここに深甚なる謝意をもって本記念号を捧げ、両先生の益々のご健勝とご活躍を祈念する次第である。

2008年3月

広島大学マネジメント学会長
井上善海